

▶ 株主情報

株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



- 割当基準日 9月末日
- 優待内容
 - 100株以上1,000株未満所有の株主様
お米券3kgを贈呈いたします。
 - 1,000株以上10,000株未満所有の株主様
お米券5kgを贈呈いたします。
 - 10,000株以上所有の株主様
お米券10kgを贈呈いたします。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	
期 末 配 当	3月31日
中 間 配 当	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

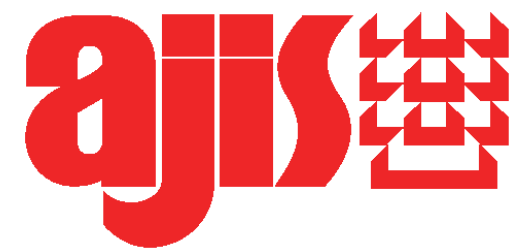
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

ajis 密 株式会社エイジス
〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

第38期 報告書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

売場の生産性を高める戦略的アウトソーシング



ホームページのご案内



<http://www.ajis-group.co.jp/>

エイジス

検索

当社ホームページには、会社情報やサービス紹介、ニュースリリースといった基本的な情報はもちろん、株主・投資家情報では、経営情報、財務ハイライトなどの情報をご覧頂けます。是非ご覧ください。

株式会社エイジス

証券コード：4659

エイジスグループの使命

エイジスグループは、
プロフェッショナルとして
お客様に最高のサービスを提供することにより、
チェーンストアの発展と
豊かな社会の実現に貢献します。

経営基本方針

私共の事業目的は、正確さを犠牲にすることなく、
効率の良い棚卸サービスで、
自信をもった「棚卸報告」を提供し、
お客様の経営判断に重要な役割を果たすことです。

エイジスグループは、実地棚卸サービスなどのリテイル
サポートサービスを提供することにより、チェーンストア
をサポートしていくことで社会貢献をしています。

それと同時にエイジスグループは、「人」を育成していく
役割も担っています。
なぜなら、エイジスグループの仕事は、人がいて初めて
成り立つ仕事だからです。どんなにテクノロジーが進化し
ても、人でなければできない仕事があります。その
中のひとつが実地棚卸サービスであり、リテイルサポート
サービスです。

人が資産の仕事ですから、エイジスグループは社員を大
切にし、社員とともに成長し、さらなる社会貢献を目指
します。

▶トップインタビュー



2期連続の増収増益を達成 国内棚卸サービスの生産性が大幅に向上

代表取締役社長 齋藤 昭生

Q 当期の事業環境と経営成績について お聞かせください。

当期の国内景況は、引き続き緩やかな回復基調で推移しましたが、一部では消費税増税の影響が見られたほか、急激な円安の進行に対する懸念が広がるなど、楽観視できない状況で推移しました。当社グループの主要顧客である流通小売業界では、消費税増税による駆け込み需要の反動減が事前の予想よりも長引いたほか、夏場の天候不順、流通小売業界全体での業種・業態を超える競争や先行き不安により、厳しい事業環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは主力の国内棚卸サービスの生産性向上に注力した結果、大幅に収益力が強化されました。また、海外棚卸サービスでは赤字幅が縮小し、リテイルサポートサービスでは大幅な増収増益を達成するなど、新規事業の育成も順調に進みました。

これらの結果、当期の連結経営成績は、売上高は21,829百万円（前期比6.4%増加）、営業利益は1,714百万円（前期比39.2%増加）、経常利益は1,763百万円（前期比41.5%増加）、当期純利益は932百万円（前期比57.3%増加）となりました。

Q 当期の主な取り組みとその成果を お聞かせください。

当期の大幅な増益の牽引役となったのが、主力の国内棚卸サービスにおける生産性の向上です。棚卸作業に用いるハードウェアやソフトウェアに最新の技術を導入しました。また、棚卸繁忙期である第2四半期および第4四半期に業務が集中する傾向をいかに通年規模で平準化するかという課題に引き続き取り組みました。棚卸閑散期の業務を積極的に開拓したことに加え、最繁忙月である2月と8月の業務を戦略的に別月に移行するなどの取り組みによって、棚卸閑散期である第1四半期および第3四半期の売上高が、対前年同四半期比でそれぞれ3.3%増加、8.0%増加となりました。それにより、棚卸繁忙期における棚卸経験者比率が向上したことなどから生産性が大きく向上しました。

海外棚卸サービスでは、多くの子会社がいまだ創業赤字を計上する状況にあり、セグメント全体では営業赤字となっていますが、7つの連結子会社すべてで増収となるなど事業規模は順調に拡大していま

▶トップインタビュー

す。韓国とマレーシアの子会社では継続して黒字となり、黒字体質が定着しつつあります。また、苦戦していた中国事業の収益改善も下期以降進んでいますので、次期にはセグメント全体での黒字転換を実現できる見通しです。

リテイルサポートサービスでは、セグメント売上高が前期比14.6%増加、セグメント利益が前期比43.8%増加と大幅な増収増益となりました。閉店後から翌日の開店までに、品切れのない売場作りを行う「集中補充サービス」が売上高を順調に伸ばしたほか、一般客を装った覆面調査員が店舗のサービス水準などをチェックする「覆面調査サービス」も販路を大きく広げることができました。

Q 今後の成長戦略をお聞かせください。

国内棚卸サービスでは、さらなる顧客の開拓に励むとともに、引き続き生産性の向上に努め、収益力にさらに磨きをかけていくことが最重要戦略となります。当期に大きな成果を上げた生産性向上への取り組みを引き続き継続するほか、新たな棚卸マーケットの開拓を進めていく必要があると考えています。

海外棚卸サービスでは、最大の課題であった黒字転換が次期には実現する見通しとなりました。中国事業での収益改善が遅れたことなどから当初計画より1年遅れの黒字化となりますが、現地スタッフの積極的な登用や経営合理化などの効果が下期から徐々に発揮され、黒字化がほぼ確実に見込まれる情勢にまでこぎ着けることができました。今後はアジア市場での棚卸マーケット開拓ととも

に、プレゼンスを高めていく必要があると考えています。

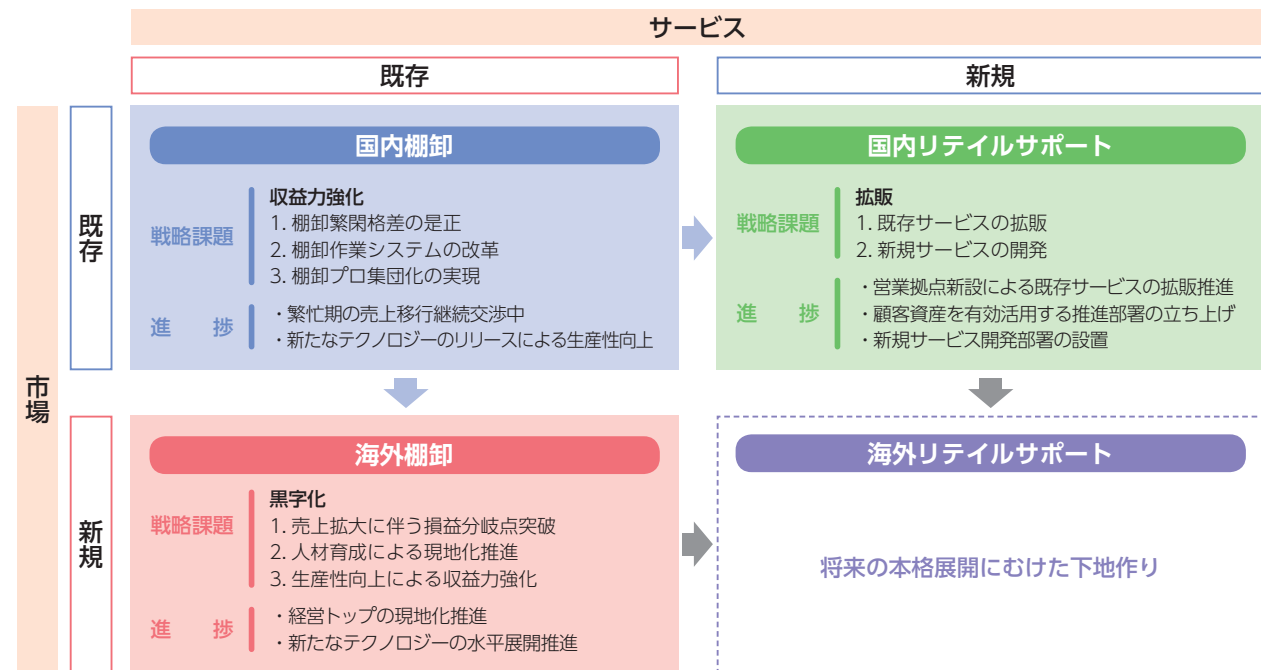
リテイルサポートサービスでは、当面は現在好調な既存サービスを伸ばしていくことが最重要戦略となります。同時に、新たなサービスの開発にも積極的に取り組み、成熟しつつある国内棚卸サービスに代わる、新たな成長のドライバーとして大きく育成させていく方針です。

Q 2016年3月期の事業計画についてお聞かせください。

事業環境に大きな変化はないと見ており、通期連結業績予想については、売上高は23,333百万円（当期比6.9%増加）、営業利益は1,900百万円（当期比10.8%増加）、経常利益は1,927百万円（当期比9.3%増加）、当期純利益は1,218百万円（当期比30.6%増加）を見込んでいます。国内棚卸サービスの生産性向上が当期同様に業績に貢献するほか、海外棚卸サービスおよびリテイルサポートサービスとも順調に成長する見通しです。一方で、社内基幹システムへの投資などを予定していることから、営業利益の伸び率は当期に比べるとやや低下する見通しです。この基幹システムについては、海外子会社を含むグループ全体の業務を統合し、大幅に効率化することを目標としており、数年間かけて徐々



中期経営計画(2015年3月期－2017年3月期) 戦略課題と進捗状況



に導入していく大規模な計画になっています。このほか、いよいよ黒字化が実現する海外棚卸サービスにおいては、新たなネットワークの構築など、次のステップに向けた準備も始める予定です。また、リテイルサポートサービスでは、既存サービスの育成と新規サービスの開発に注力するほか、国内棚卸サービスとのシナジーをさらに発揮できる体制作りにも取り組みたいと考えています。

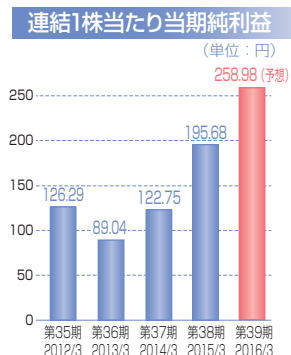
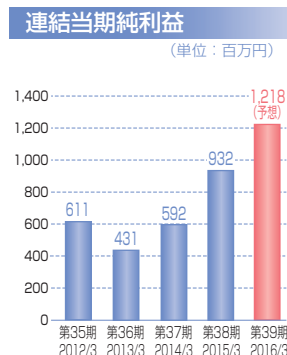
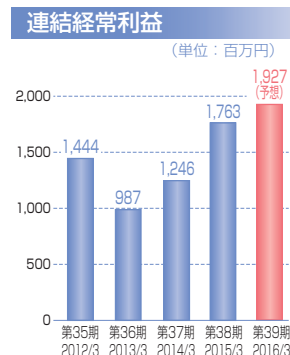
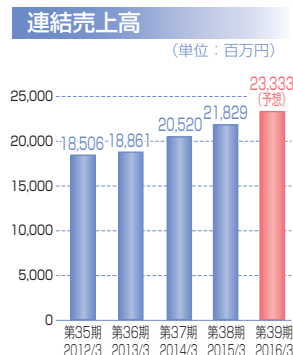
Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、長期的に安定した収益力を保持するとともに企業体質強化のための内部留保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。このような方針に基

づき、当期の配当金につきましては、1株当たり期末配当45円とさせていただきます。

当期は2期連続の増収増益を達成することができ、とくに営業利益については前期比39.2%増加という大幅な増益を実現することができました。主力の国内棚卸サービスの生産性向上に加え、新規分野である海外棚卸サービスとリテイルサポートサービスの成長によって、非常に安定した収益体質が確立したと考えており、中期経営計画の収益計画も上方修正しました。今後は「日本の棚卸会社」から「アジアのリテイルサポート企業」へと脱皮し、真のグローバル企業としてさらに大きな成長を目指してまいり所存であります。

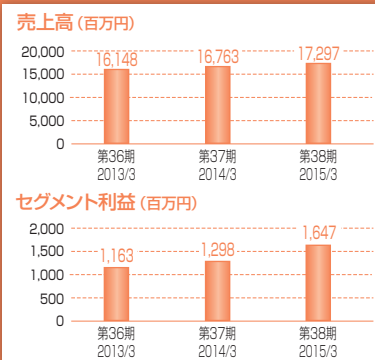
株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みを是非ご理解いただき、今後とも更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



▶セグメント別の業績

国内棚卸サービス

売上高 >> **17,297**百万円
セグメント利益 >> **1,647**百万円



国内棚卸受託収入

棚卸サービスの売上高は前年同期比3.0%増加の16,769百万円となりました。業態別の内訳は下記のとおりです。

国内棚卸受託収入の業態別売上高 (構成比)

■ コンビニエンスストア	3,691 百万円
■ スーパーマーケット	2,451 百万円
■ ホームセンター・ドラッグストア※1	3,682 百万円
■ 書店	907 百万円
■ G.M.S.※2	2,278 百万円
■ 専門店等※3	3,758 百万円

※1 従来の「ホームセンタードラッグストア・ディスカウントストア」は、当連結会計年度より「ホームセンタードラッグストア」へと業態の名称を変更しています。

※2 G.M.S.(General Merchandise Store)大衆実用品のうち、新機能開発品主力の総合店。いわゆる日本型大型総合スーパーであります。

※3 従来の「その他」は、当連結会計年度より「専門店等」へと業態の名称を変更しています。

その他※4

新規顧客の受注により、売上高は前年同期比8.4%増加の375百万円となりました。

※4 従来の「その他の流通業周辺サービス」は、当連結会計年度より「その他」へと業態の名称を変更しています。

主なサービス内容…当社の実地棚卸サービス事業。

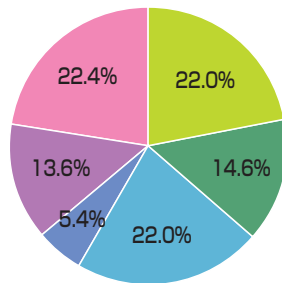
●実地棚卸サービス事業

商品棚卸 ▶ 国内における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。

資産棚卸 ▶ 国内における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。

その他▶ 単品棚卸システムを活用してPOSレジマスターに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

国内棚卸サービスにおいては、「収益力強化」を中期課題と位置づけ、今期より取り組んでまいりました。重点施策である棚卸閑散期の業容拡大および生産性の改善については、いずれも着実に成果が表れました。棚卸閑散期である第1四半期連結会計期間および第3四半期連結会計期間の国内棚卸サービス売上高はそれぞれ、対前年同四半期比3.3%増加、8.0%増加となりました。利益面では、棚卸繁忙月である2月および8月の売上高を戦略的に別月へ移行し、業務の平準化を推進したことにより、棚卸経験者比率は改善いたしました。さらに作業効率向上につながる新システムおよびオペレーションの導入により、生産性の改善につながりました。

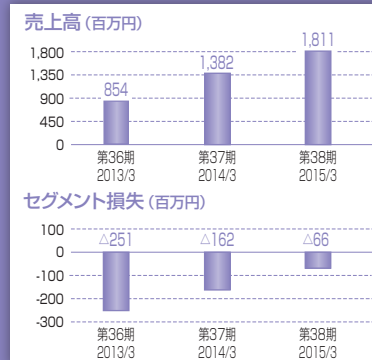


売上高
21,829 百万円

79.2%

海外棚卸サービス

売上高 >> **1,811**百万円
セグメント損失 >> **66**百万円



主なサービス内容…海外連結子会社の実地棚卸サービス事業。

●実地棚卸サービス事業

商品棚卸 ▶ 海外における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。

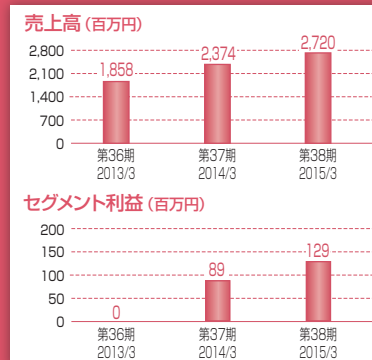
資産棚卸 ▶ 海外における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。

その他▶ 単品棚卸システムを活用してPOSレジマスターに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

海外棚卸サービスにおいては、連結子会社全7社で増収となり、売上増加基調で推移しております。利益面では多くの子会社がまだ創業赤字を計上する状況にありますが、黒字化に向けて鋭意努力をし、エイジスビジネスサポート(韓国)およびAJIS (MALAYSIA) SDN.BHD.(マレーシア)は継続して黒字となりました。

リテイルサポートサービス

売上高 >> **2,720**百万円
セグメント利益 >> **129**百万円



主なサービス内容…人材派遣、集中補充およびカスタマーサービス・チェックを含むリテイルサポートサービス事業。

●リテイルサポートサービス事業

人材派遣 ▶ 流通小売業周辺業務およびその他軽作業業務へ要員を派遣するサービス。

集中補充 ▶ 閉店後から翌日の開店までに、品切れのない売場作りを行うサービス。

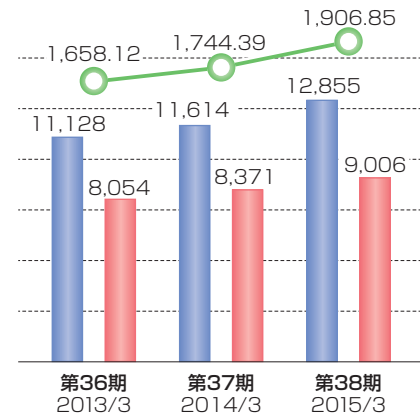
カスタマーサービス・チェック ▶ 店舗における従業員の接客サービスレベルとストアコンディションを覆面調査員が調査するサービス。

リテイルサポートサービスにおいては、売上増加基調で推移しており、連結子会社全2社で増益となりました。エイジススタッフサービス株式会社は既存クライアントとの関係強化による売上増加、エイジスリサーチ株式会社は販売チャネルの多様化を進め売上増加となりました。

▶ 連結財務データ

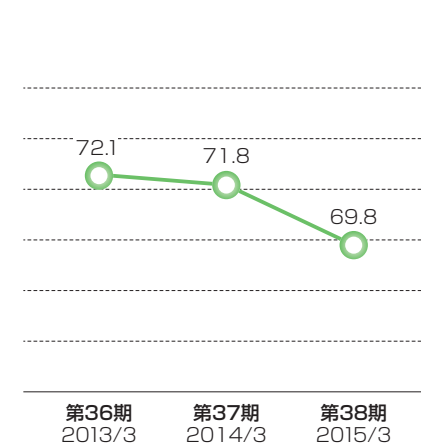
財 政 面

■ 総資産 / ■ 純資産 (単位：百万円)
○ 1株当たり純資産 (単位：円)



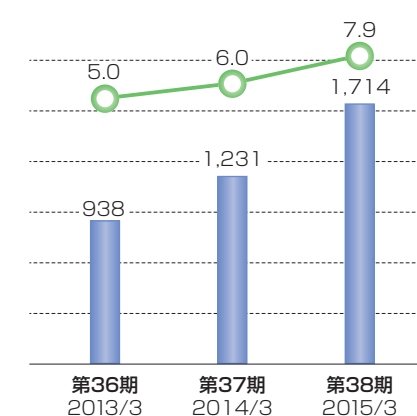
総資産は前期末に比べ1,241百万円増加して、12,855百万円になりました。純資産は635百万円増加して、9,006百万円になりました。これは主として、利益剰余金の増加によるものです。なお自己資本比率は前期末に比べ、2.0ポイント減の69.8%となりました。

○ 自己資本比率 (単位：%)



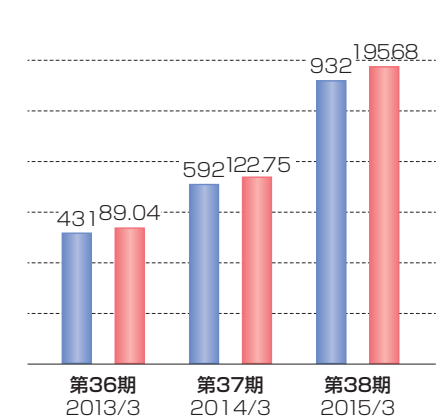
収 益 面

■ 営業利益 (単位：百万円)
○ 売上高営業利益率 (単位：%)

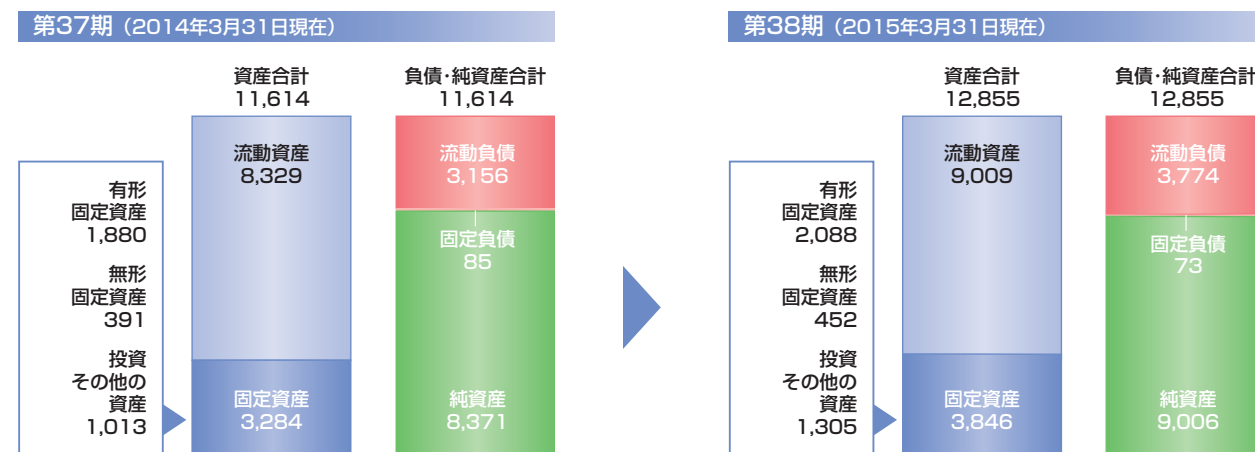


全てのセグメントで増益または損失の減少となりました。「収益力強化」を中期課題と位置づけている国内棚卸サービスにおいて、着実に成果が表れた結果、営業利益は483百万円増加の1,714百万円となりました。

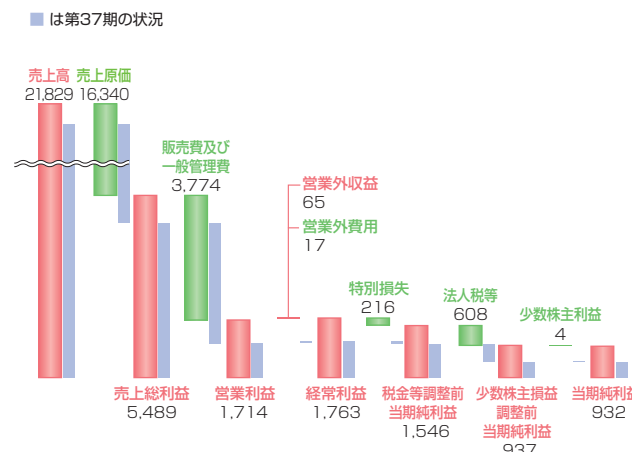
■ 当期純利益 (単位：百万円)
■ 1株当たり当期純利益 (単位：円)



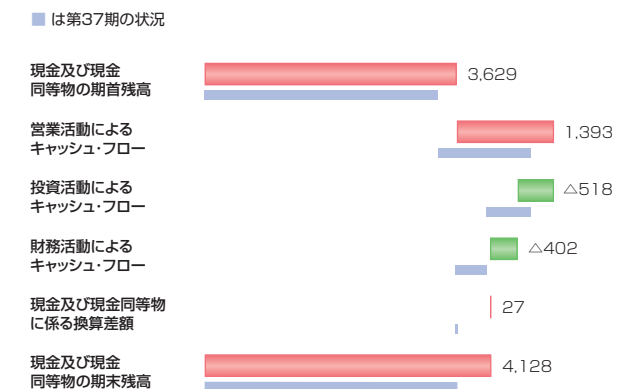
貸借対照表の概要 (単位：百万円)



損益計算書の概要 (単位：百万円)



キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



▶ 株式情報

株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	3,373名

大株主(上位10名) (2015年3月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
有限会社斉藤ホールディングス	1,285,500	23.87
齋藤昭生	716,680	13.31
ピーピーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド	513,800	9.54
齋藤茂男	203,900	3.79
小林美保子	191,800	3.56
齋藤泰範	127,670	2.37
エイジス従業員持株会	95,156	1.77
清水昭順	90,170	1.67
ゴールドマンサックス インターナショナル	53,340	0.99
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	52,200	0.97

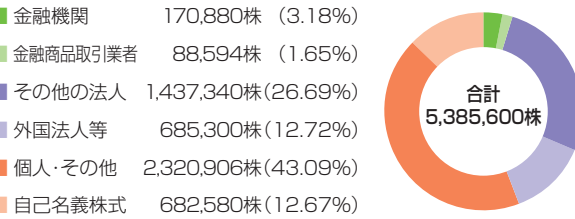
(注) 当社は、自己株式682,580株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

利益配分に関する基本方針

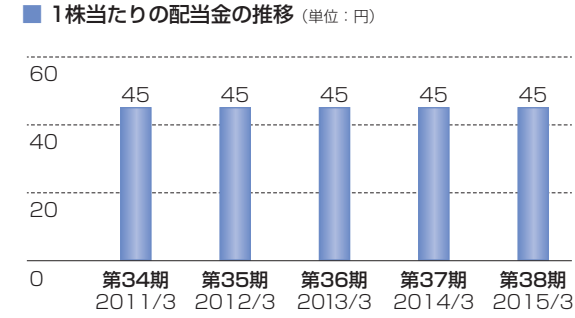
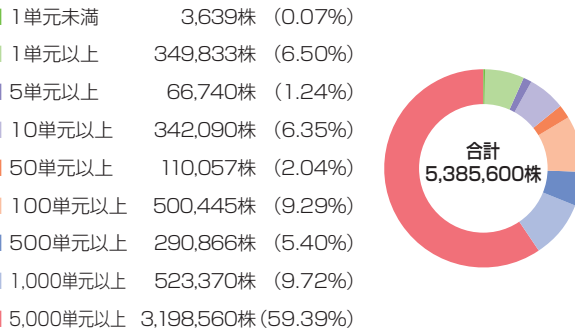
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重点課題と位置づけており、長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。

当期の配当につきましては、1株当たり期末配当45円とさせていただきます。一方、内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・オペレーション体制を強化するために有効投資してまいりたいと考えております。

所有者別分布状況 (2015年3月31日現在)



所有株数別分布状況 (2015年3月31日現在)



▶ 会社概要／主要取引先

会社概要 (2015年3月31日現在)

会 社 名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO., LTD.)
資 本 金	475百万円
設 立 年 月 日	1978年5月23日
従 業 員 数	255名(677名 ※連結)
営 業 拠 点	直営48カ所 FC35カ所 (合計83カ所)
業 務 内 容	● 実地棚卸サービス
主要取引銀行	● 三菱東京UFJ銀行 ● 千葉銀行 ● みずほ銀行 ● 三井住友銀行
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役および監査役 (2015年6月26日現在)

代表取締役社長	齋 藤 昭 生
常 務 取 締 役	高 橋 一 人
取 締 役	近 江 元
取 締 役	竹之下 正 夫
取 締 役	戸 丸 富志夫
取 締 役	山 根 洋 行
取 締 役	手 塚 勝 也
取 締 役	福 田 久 也
取 締 役	森 和 弘 (社外取締役)
常 勤 監 査 役	増 子 泰 由 (社外監査役)
監 査 役	鈴 木 行 雄
監 査 役	船 橋 茂 紀 (社外監査役)

主要取引先 (2015年3月31日現在)

コンビニエンスストア		
サークルKサンクス	セブンイレブン・ジャパン	ミニストップ
スリーエフ	ファミリーマート	山崎製パン
セブオン	ポプラ	ローソン
G.M.S./スーパーマーケット		
アルビス	コープこうべ	ベルク
イオンリテール	サミット	マックスバリュ各社
イズミ	G-7 スーパーマート	マルエツ
イズミヤ	生活協同組合ユーコープ	万代
イトーヨーカ堂	生活協同組合コープネット事業連合	みやぎ生協
いなげや	大黒天物産	ヤオコー
ウオロク	東急ストア	ヤマザワ
オークワ	とりせん	ヤマナカ
オオゼキ	長崎屋	ユニバース
オギノ	原信ナルスホールディングス	ヨークベニマル
Olympic	パロー	ライフコーポレーション
カスミ	ベイシア	
関西スーパーマーケット	平和堂	
百貨店		
大丸松坂屋百貨店	東急百貨店	丸井
高島屋	阪急阪神百貨店	三越伊勢丹ホールディングス
天満屋	松屋	
ホームセンター/ドラッグストア		
ウェルバーク	サンデー	PLANT
カインズ	サンドラッグ	ホームマック
カワチ薬品	CFSコーポレーション	マツモトキヨシ
クスリのアオキ	島忠	ユタカファーマシー
クリエイト エス・ディー	スギ薬局	ユニリビング
ケーヨー	セキチュー	LIXILビバ
ゲンキー	ダイユーエイト	ロイヤルホームセンター
コーナン商事	千葉薬品	
コクミン	富士薬品	
書店		
あおい書店	三省堂書店	宮脇書店
旭屋書店	三洋堂書店	未来屋書店
ヴィレッジヴァンガードコーポレーション	ジュンク堂書店	有隣堂
勝木書店	文教堂	リプロ
カルチュア・コンビニエンス・クラブ	文真堂書店	
紀伊國屋書店	丸善書店	
専門店等(アパレル)		
アダストリア	ジョルジオ アルマーニ ジャパン	ライトオン
エディー・パウアー・ジャパン	東京シャツ	ユニクロ
ギャップジャパン	トリンプ	ワークマン
クリスチャン ディオール	西松屋チェーン	ワールド
ゴールドウィン	バル	
ザラ・ジャパン	ポロラルフローレン	
専門店等		
赤ちゃん本舗	ゼビオ	藤久
アディダス ジャパン	セリア	メガススポーツ
エディオン	大創産業	やまや
キャンドゥ	東急ハンズ	良品計画
コーチ・ジャパン	ドン・キホーテ	ロフト
コジマ	日本トイザらス	ローソンHMVエンタテイメント
上新電機	ビックカメラ	ローソンマート

※ 敬称・法人格は省略させていただいております。※ 50音順